

# 日本近代詩の展開

～1920年代から1960年代へ～

佐藤 元紀

日本近代詩

モダニズム

戦争と詩歌

研究室の所在：ソーシャルデザイン工学科講義棟4階

## ・なぜこの研究をしているの？

文学作品を読み、「なぜその“ことば”が発せられたのか？」「なぜこのような表現なのか？」という問いを抱いたことはありませんか？文学作品を単なる芸術作品と捉えるのではなく、どのような時代と作家が向き合ったのかを立体的に捉え、特定の時代のなかでその作品がどのような意味を持ったのかを明らかにするために研究をしています。

## ・具体的に今やっているのはどんなこと？

近年では、漫画やアニメ、ゲーム等の登場人物として消費されている中原中也の詩篇を対象として研究を行っています。

特に、詩集『山羊の歌』までに、第一次大戦後の西洋の芸術思潮や哲学、フランス文学の影響を受けながら、どのような詩の方法を獲得し、何と向き合いながら中也が詩を歌っていたのかについて検討しています。



中原中也訳『ランボオ詩集』より

高知県出身の近代詩人・岡本弥太の詩篇を対象に研究を進めています。昭和初期には全国的にも名が知られていた弥太ですが、現代では忘れられた詩人の一人となっています。

特に、弥太が残した第二次大戦中の詩篇や詩論、評論を読み解くことにより、戦後の西日本詩壇の展開になぜ弥太が大きな影響を与え得たのかについて考察しています。



『県民クラブ』より

## ・研究成果はどのようなモノやコトに役立つの？

【人間の営みを問うための一つの尺度の提示に貢献】

小説家に対して詩人は、時代に対して超然とした態度を保ちながら、個人的な体験に基づいて詩を歌っていると考えられがちです。しかし、一人の生活者として時代の空気を吸いながら生きていることに両者相違はありません。各時代特有の問題を抱えた状況下で、様々な物事と対峙してきた人々の痕跡として文学作品を読み解き、評価することは、現代を生きる我々にとっての大きなヒントの発見と反省に繋がります。

